

タチツボスミレ(立坪菫)



(井村) 2012年 今年一番の花はタチツボスミレでした。

ヤシャブシ(夜叉五倍子)



(井村)左の写真はヤシャブシ。葉が付いているから分かります。右の写真は、ハンノキ? ヤマハンノキ?。いずれにしてもカバノキ科ハンノキ属、似ていますがやはり個性が。葉が出れば分かります。

アブラチャン(油漉青)



(井村)葉が落ちない木、落ちた木、雌雄に関係あるのかな? 2本づつ、荷札を付けておいて、後から調べてみましょう。

これは?



池の対岸の散策路上にありました。(井村)イチヤクソウ系統だと思いますが、いやに葉が赤いです。花が咲くの待ちましょう。

カエルの鳴き声?

(井村)池の対岸にある沼地でカエルの鳴き声が盛んにしました。みんながやってくると鳴き声は止みます。聞きましたか? 早い時期鳴くのはアカガエルと聞きますが? 誰か分かるかな?

ヒカゲノカズラは苔かシダか?



(井村)シダ植物でした。よく、A-coopなどで、リースに使われるモルミたいなやつです。池の対岸の草むらにありました。

ビューポイントからのハヶ岳(写真:山中)



アンケートでの要望事項
権現岳、編笠山、西岳

遭遇1! 蝶

頂上付近で、蝶が通りました。大嶋さんのレポートの写真参照。(馬場)ヒオドシチョウです。雌雄の班紋差は無く、雌雄は尾部の形状で判別するしかありません。次回は虫捕り網持参します。よく似たエルタテハも池の脇で見ました。

(井村)ヒオドシチョウ、エルタテハ何れも、過去にも観察しています。<幼虫の食草・食樹>ヒオドシチョウ:エゾエノキ、ヤナギ類 エルタテハ:カバノキ科シラカバ、ウダイカンバ (矢崎)サンショウの枝についたアゲハチョウのさなぎの残骸も見付けた。

他、蛾ですが、ウスタビラガ、クスサンの繭

遭遇2!

中央コース、ハイヌガヤのヤブの向こうの黒い物は何? 「あっ カモシカ、カモシカ?」 「誰かシャッター切った?」 シーン。「残念」

野鳥は?

(矢崎)ミソサザイ、ヤマガラ、ヒガラ(昼食時に姿確認) メジロ、アカゲラ、コゲラ、マガモ、コガモ (荒木)エナガ

誰のウンチ?



(荒木)テンです。うちに良く来ます

誰のウンチ その2?



(山中)これは「置きグソ」といって、キツネなどが木の切り株や、テーブル状の石の上に糞を残したあと。なぜ、こんな派手なことをわざわざやるのか? (井村)動物の毛が一杯入っていました。

モグラ?



(井村)散策路上に転がっていました。どうしたのでしょうか。「霧ヶ峰の自然」にはヒミズとアズマモグラがいると書いてありアズマモグラだと体調14cm だというし、手が余り発達していないから、ヒミズが正解かも。

地元の情報(北澤)

①山頂から見える小泉山、大泉山の地元の読み方は「こずみやま」、「おずみやま」



この地方に多い両角(もろずみ)姓は、こ「ずみ」と、お「ずみ」の両方の「ずみ」をあわせて、「もろずみ・両角」←右が小泉山

大きい方が小泉山というのはなぜ?という疑問が出ていました。確かに面積的には大きいけど、高さは小泉山 1069.8m、大泉山 1115.2m。このせい?(井村)

②ツノハシバミは子どもの頃、おやつに食べた。ハイヌガヤの実も食べた。

③リョウブの枝は直線なので野菜の手(支柱)にした。など、など。

このきのこは?



(井村)聞かれましたが、宿題です。候補はオシロイタケ、オオオシロイタケこれから経過観察です。



これはカワラタケ

山菜の誤食による事故のニュース



(井村)トリカブトをニリンソウと間違えて食べて亡くなったというニュースを聞きました。市民の森で、ニリンソウは確認していません。写真左は、トリカブトです。これは沢山ありますよ!

キツネノカミソリの葉



(井村)森が明るいうちに光合成をして栄養を蓄える。そして葉は消えるはず。そして、花は8月中旬。ガイドブック P101

アブラチャンの冬芽 見ました?



(井村)アブラチャンの花はまだ見れませんが、冬芽も可愛いですよ。花はガイドブック P66

フクジュソウ



(井村)これは植栽だと思いますが、どうか?

こんなのがぶら下がっていたでしょう?



(井村)オニドコロの種が出た殻花はガイドブック P86

山頂の展望が残念

(声1)もう少し間伐できないのか?
(声2)どこでもハヶ岳は見えるのだから、敢えて、ここで見れなくても、これはこれで良いのではないの?

なぜ、こうなるの?

真っ二つにスパッと割れている。(左写真) 卵の殻のように割ける(右写真)



転がっている岩はみな角が丸い。

<<思わぬところから答が!>>

池側の小川にキラキラ光る砂粒がある。砂金か?黄鉄鉱か?→金雲母→縄文のビーナスの表面で煌めくのは雲母と聞いたぞ!

縄文のビーナスの表面で煌めくのは吉田山産か?

→尖り石縄文考古館に問い合わせる。

吉田山、永明寺山で見かける上写真のような岩石は花崗閃緑岩(かこうせんりょくがん)で大変脆く風化しやすい。その結果、卵の殻のように割れ、崩れて砂になっていく。この砂には、岩石の成分である雲母も含む。P58 縄文土器を作るときには、粘土に砂を混ぜる必要がある。この砂として、吉田山、永明寺山の砂を使った。この二つの山は、他の山と形成され方が異なるため、吉田山、永明寺山の砂と断定出来る。

割れ目は、マグマが冷えて固まる時に割れ易い面が出来、それに沿って割れる。

月例観察会メンバーになぜ移住者が多い?

地元出身の小林さんの感想をお借りします。

「(前略)…地元の人が少ないことに驚きました。移住して来た人のほうが熱心だと父も言っていました。地元出身者としてはそれをまのあたりし、なんともいえない気持ちでした。

地元民にしてみれば山も木も花も周囲の自然は生活の場であり生活の糧であってそれを改めて観察とか楽しむことは出来ないのかも知れません。

それは各所で感じます。

そしてやはりというべきか、移住される方は別荘地など自然の豊かな場所を選ばれるのですね。

自分も学生時代電車通勤をしましたが、茅野駅で皆大きなリュックを背負って山に行つて何が楽しいのかと思つたものです。

ただその山を毎日眺め生活してきたからこそ、またその地に戻り山を見て暮らしたいと、そしてかつてその地に住んでいた人々のことが知りたいと思つたのかもしれない。

結局住んでいるのはアパートですがハヶ岳が見える所を選び仕事もより自然に接することが出来る所とを考えていました。…(後略)」

(小林)

4/10 (Tue.)
自然観察会にて

大嶋さんの記録です。



早速のお出迎えはコブハサミムシでした。
日向に誘っても蔭へ蔭へと向かう習性は面白かった。

この枝ぶりはミズキ
(井村)



木を伐る時には根元から重心を見るよう
教わりました。その視点で見ると枝の張り具合が
良く判り、樹種判定の一つに良いかも？



おう～この怪物は？・・・でした！という様な表現は子供も喜びそう
尤も順光のほうが怪物的に見えますね。



ツノハシバミです。
(井村)



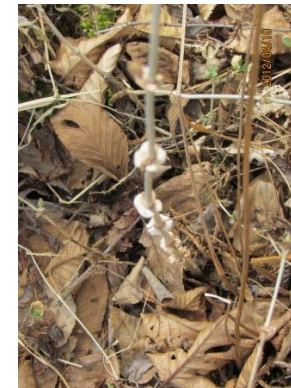
頂上で見た蝶は頭が尖っていないのでテングチョウ
でなく同じく成虫越冬するヒオドシチョウかも？



池から下った搬出木集積地あたりの道の
中ほどに芽を出していました。クリンソウ
でしょうか？



池で泳いでいたのはコガモの♂♀の様です。



ミウヤマウグイスカグラ

ネットで検索したら、徒長
枝や幼木に残る葉柄とあり
ました。長峰山でも見たの
で次の通信に載せようかと
思います。

徒長枝はシュートともいいます。
葉柄でなく托葉と言う説も。
(井村)